

園番号	園名
639	奈良市立伏見南幼稚園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育 活動 に 関 す る も の	(1) 教育目標・教育計画	① 教育目標の設定	・教育目標を設定し、めざす子ども像をキーワード化し全職員で共通理解している。	・教育目標「夢をもち、豊かな心で意欲的に活動する幼児の育成」と設定し、教職員で共通理解した。	A	A	・教育目標に迫るための経営方針を会議で共通理解できた。 ・教育要領、奈良市教育意章を再確認し教育目標や方針、教育計画の作成した。保育形態の変容に十分に対応できたかについては、これから検証していく必要がある。 ・今年度も保護者アンケートでは「子どもは喜んで幼稚園生活を送っている」「友達や先生と一緒に遊ぶことを楽しんでいる」「教育目標や方針を分かりやすくつたえている」に保護者から100%肯定的な回答があったため。
		② 教育計画の作成	健康でしなやかな心と体をもった子<のびのび>生命を大切に思いやりのある子<ほかほか>	・教育ビジョンの周知と共に目指す子ども像を常に意識し、教育活動に取り組んだ。	B		
		③ 教育課程の編成	願いを出し合いなかと共に遊ぶ子<くわくく>よく考えよく工夫し最後までやり遂げる子<こっこつ>感動する心や表現する心をもった子<きらきら>を育てる教育を計画する。	・教育要領の理念を確認し、保育形態の変化に対応し、環境を整えるようにした。	B		
		④ 教育活動の評価	・教育要領や幼児・園の実態を踏まえ、教育課程を編成している。	・保護者・教職員を対象にしたアンケートや話し合いを実施し、改善に努めた。	A		
	(2) 教育内容・保育指導	① 指導計画の立案	・教育要領やバンビーノプラン、幼児の実態、社会状況に即した指導計画を立案している。	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」やバンビーノプランをベースに、感染症対策を熟慮しながら、各学年の指導計画について検討、作成した。	A	B	・年間計画について、教職員で話し合い、共通理解に努めたので。 ・保護者の方が自分の子どもが話したり伝えたりする力、相手の話を聞く態度は十分育っていないという回答があったので。 ・機会ある毎に子どもの姿を通してカンファレンスをした。
		② 保育内容の精選	・ねらいを明確にし、環境・教材を工夫している。	・子どもの思いや願いが生きる環境の工夫と教材を研究し、実践した。	B		
		③ 指導方法の工夫改善	・感染症対策を行い、個々に応じた指導、学級全体への指導の在り方を考え柔軟に実践している。	・幼稚園、家庭の環境の変化に対応しながら、個々の実態、発達の過程を職員間で共通理解し新しい生活様式をふまえて指導に取り組んできた。	B		
		④ 評価	・教職員間で保育の振り返りをし、子ども理解を進め評価している。		B		
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	・子どもにとって必要な行事を精選し、感染症対策をして計画、実施をしている。	・関係機関からの指示伝達を受け、感染症対策を行い実施した。	A	A	・地域の方々、保護者からの協力を得て、園行事を実践できたので。 ・幼児は行事を通して、人・もの・ことかかわり、経験を積み重ねるができた。 ・保護者アンケートの「園行事を楽しむに喜んで参加している」では100%の肯定で回答を得た。
		② 行事内容の精選	・ねらいに添った環境や援助の在り方を工夫したり、その場、状況に応じた態度が身につくように支援したりしている。	・これまでの行事を見直し、内容、実施方法などを検討し、取り組んだ。	B		
			・可能な限り、いろいろな方々に協力をいただき、豊かな経験ができるように連携を図っている。	・計画に基づき行事を行うと共に、保護者の方の理解を得ながら、子どもたちが豊かな経験を積み重ねられるようにした。			
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	・幼児、地域の実態に即した人権教育指導計画を作成している。	・指導計画と個々の実態を重ね合わせて、日々取り組んだ。	B	B	・一人一人の人権尊重を基盤に、子どもの様子を話し合ったり背景を探ったり指導したので。 ・保護者アンケートで、子どもの人権を尊重し、教育活動に取り組んでいることが100%の評価でなかった。
		② 保育内容の精選	・自分の良さを知ると共に、異年齢・保・小・中学校・地域の方とのふれあいを通して、互いの良さを知り、憧れをもち、認め合える集団作りに努めている。	・一人一人のひっきりや疑問点に丁寧に向き合い必要に応じて学級全体で取り組んだ。 ・人とのかわり方や、認め合う大切さなどを毎日の生活の中で友達や身近な人とのかわりを教材として、指導した。	A		
		③ 指導方法の工夫改善			B		
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	・全職員の共通理解のもと、幼児指導を行っている。	・発達段階に応じて、基本的な生活習慣、安全教育、食育などの計画を立案した。	A	A	・指導計画を共通理解するとともに、個々に応じた指導に取り組んだので。 ・幼児が園生活が安心して送れるように、家庭との連携を図り、啓発を続けているので。
		② 教育相談・幼児理解	・幼児にかかる情報を集約、共有し、幼児理解を深めている。	・支援が必要な幼児に対して、教職員で共通理解をし、保護者とも対話を重ね継続的な指導を行った。	A		
		③ 家庭との連携	・幼児の健全な成長の為、実情に応じ、家庭、関係機関との連携を図っている。	・登降園時の話や学級懇談会などを通して、保護者に理解と協力を求めたり啓発したりした。	A		
		⑤ いじめ・児童虐待問題について	・日頃より実態把握・早期発見に努めている。	・いじめにつながる行為や言動、感染症への偏見を早期発見し、クラスで話し、社会生活を営むための規範意識が身につくように指導した。	A		
			・要支援児には丁寧にかかわり、関係を確立する。	・園内が安心、安定した場であることを実感して生活している。	A		
・各学級の状況を園組織として共有できている			・実態把握をし、全職員で共通理解をし、課題を明らかにして取り組んだ。	B			
		・保護者や地域と連携できている	・保護者の話を聞き、信頼関係を構築し、適切な支援に努めた。	B			
		・組織的に迅速に対応する体制が整備されている	・報告・連絡・相談に努めている。	A			
(6) 特別支援教育	① 推進体制	・全職員が共通理解し、支援教育を行う。	・支援を必要とする幼児の課題を教職員で共通理解し、園の課題として取り組んだ。	A	A	・支援を必要とする幼児の日々の様子や指導計画を共通理解して、効果的な特別支援教育の実施に努めた。 ・進学、進級に向けて、関係機関と連携しながら対策を図ったので。 ・家庭、関係諸機関との連携、研修の充実等に努め、特別支援教育を進めたので。	
	② 個々に応じた特別支援教育の内容	・確かな成長につなげている。	・個々の幼児の成長を家庭と連携をとり、確かめた。	B			
	③ 指導方法の工夫改善	・家庭・関係機関との連携を密にし、必要に応じて園訪問及び指導を仰ぐ。	・市の発達相談を活用したり、関係諸機関と連携したりし、特別支援教育を行ってきた。	A			
	④ 家庭との連携		・個々の課題を明らかにし支援する、外部研修での成果を共有するなど職員のスキルアップにつながる取り組みをした。	A			
	⑤ 関係機関との連携			A			

園番号	園名
639	奈良市立伏見南幼稚園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
II 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	・園長としての思いや願いを教職員にわかりやすく伝え、取り組んだ。	・教育ビジョンを示し、そのプロセスを明らかにした。	A	・園長が本園保育の理念を機会をとらえては保護者地域等に発信した。 ・アンケート結果や意見等を多角的に分析して改善に取り組んだので。 ・活動立案者が率先して活動を進め全員の理解を促し、活動に臨むように努めたので。	・“協働”を常に意識して、組織運営にあたる。 ・今後も園務の分担を各自が自覚し責任をもって遂行し、率先で進めていく。 ・これからも職員間の意思疎通を図り、一人一人の良さが生かされる環境づくりに努める。
		② 園経営目標・方針	・明確で理解しやすい目標・方針である。	・保護者、子ども、教職員に理解され、日々の保育で意識して取り組んだ。	A		
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識	・職員の共通理解を基盤に役割分担、協力体制が構築されている。	・アンケート結果等から必要な改善点を明確にして解決に努めた。	B		
		④ 園務分掌等の連携	・情報交換と課題検討の場として機能し、園運営に生かしている。	・共通理解で課題解決に努め、一人一人の良さを生かした取組に努めた。	B		
		⑤ 会議の運営と位置づけ	・一人一人が特性を生かしながら、共に力を出し合い、高まっていこうとする関係作りに努めている。		A		
		⑥ 会議の結果	・変化に対応できる柔軟な運営に取り組んでいる。		B		
		⑦ 職場の人間関係			B		
		⑧ 園評価の実施			A		
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	・計画的、継続的に研修を実施している。 ・創意工夫のある保育実践に取り組み、新しい生活様式をふまえた保育を探り、実践している。	・教育課程・研究主題・人権教育・特別支援教育などの園内研修を計画し、実施した。 ・奈良市立こども園カリキュラムにかかわる研修をし、育ちの姿を再確認した。	B	・研修したことが、幼児理解につながり、子どもの育ちを促すことになったので。 ・外部講師を招いての指導、助言や職員間のカンファレンスにより、保育に生かされた。 ・感染症に関する情報はスピード感をもって職員で理解、共有し、実際保育に必要な対応に取り組んだので。	・今年度の研究内容を話し合い、次年度に向けての体制を整える。 ・係染状況については情報収集し、関係機関からの指示伝達を理解し柔軟に対応し、保育に取り組むように努める。 ・園内研修、外部研修の充実のための時間と予算の確保に努める。
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施	・研修、研究会に参加し、その成果を他の教職員に伝え共有できている。	・日々の子どもの姿から省察し、保育内容・環境の構成について協議し、実践した。	B		
		③ 園外の研修への積極的参加	・園研究テーマを意識し、実践、研究に取り組む。	・研修に参加し、学んだことを共有、協議し、スキルアップにつながるようにした。	B		
		④ 園外研修内容の報告や伝達		・感染症に関する情報を職員間で共有、理解し対応した。	B		
		⑤ 研修成果の普及			B		
	(3) 安全管理	① 安全計画の立案	・安全安心な園生活が送れるように、計画を点検し、全職員で理解している。	・園内の安全点検・避難訓練などを年間を通して計画し、幼児が安全に過ごせるようにした。	A	・月1回の訓練を行うと共に、幼児自身が避難時について考える指導を行うことができたので。 ・園児引き渡し訓練の実施後のアンケート結果から保護者の意識が高まりがわかったので。 ・安全についての啓発や集団降園時の指導を繰り返して行った。	・様々な災害発生を想定し、避難訓練の方法・充実を図る。 ・園児引き渡し訓練をより充実させる。 ・避難経路の確保について、引き続き関係機関に働きかける。 ・事故を未然に防ぐことができるように、教職員間で意識を高めていく。
		② 防災計画の立案	・災害発生時や緊急時に対応する実践的な訓練を実施している。	・日常の生活の中で危険回避や安全な生活について機会ある毎に指導した。	A		
		③ 危機管理体制の整備	・幼児の発達段階や地域の実情に応じた安全指導を工夫している。	・園児引き渡しカードを作成し、大規模災害発生を想定して、引き渡し訓練を実施した。	B		
		④ 安全指導の工夫改善	・家庭・地域と連携をして、登降園の安全を図っている。	・PTAの協力を得て、登園時の安全点検や集団降園時の保護者全員での安全確認を行った。	A		
		⑤ 家庭との連携			A		
		⑥ 関係機関との連携			A		
	(4) 保健管理	① 保健計画の立案	・幼児が、自分の体や健康について興味をもったり考えたりできるように、発達段階・時期に応じた計画を立案し、実践している。	・検診や身体測定等を計画的に行い、幼児が自分自身の体や成長について興味をもてるようにしてきた。	A	・検診や測定、保健指導を通して、幼児自身が健康について、考えるようになったので。 ・感染症拡大防止にできる限り対応し、取り組んだので。 ・時期に応じた指導、啓発をしたり、情報提供したりして、保護者との連携に努めた。	・感染症予防については、市、関係機関と連携し必要な対策を進める。 ・保健計画を見直し、健康・成長・予防などについての教材を研究する。 ・たよりなどを活用して、保護者への啓発と連携を行う。 ・衛生管理により一層努める。
		② 心のケアや健康相談の体制の整備	・子ども自身の意識が高まるように働きかけている。	・感染症に関する情報収集に努め、適切に対策を実施したり保護者に啓発したりした。	A		
③ 健康観察、健康管理能力の育成		・関係機関と連携し、感染症の対策をしたり、暑さや熱中症への対策をしたりしている。	・消毒・手洗い・うがいなどの指導及び、衛生管理に努めた。	A			
④ 関係機関との連携		・保育の中に、食育を計画的に入れ、食と体、自分の健康について関心をもてるようにしている。	・園三医師、薬剤師との連携を図った。	A			
⑤ 昼食の衛生管理		・感染症対策を徹底し、昼食前後の衛生管理をする。		A			
(5) 地域との連携	① 園情報の発信	・教育活動にかかわる情報を地域、保護者に発信したり、保育公開をしたりしている。	・園だより・クラスだより・ホームページ・懇談会等を通して、園生活の様子を知らせた。	A	・たよりや園内写真及びホームページより、家庭や地域に園の活動を発信することができたため。 ・制約はあるが地域の校園と情報交換をした。 ・学校評議員会をもち、子どもの実態や園運営の状況について説明をしたので。	・ホームページの活用と共に、家庭・地域に向けての発信を高める。 ・感染症対策をし、校種間の連携をどのようにしていくかに協議をする。 ・学校評議員会で、園運営などについての意見を参考に、改善やより良い運営を探っていく。	
	② 園(保育)公開	・園の願いを受け止めてもらえるように説明や依頼を行い、地域、保護者と連携している。	・地域コーディネーターと連携して、可能な活動を計画し、実施した。	B			
	③ 小学校との接続・連携	・地域の教育力を生かしている。	・地域の校園とは、実際の交流はできなかったが、情報交換に努めた。	B			
	④ こ幼保との連携	・多様な人とのかわりや校種間交流を進めている。	・学校評議員会を開催し、保育や園行事を参観して頂き、園に対するアドバイスや評価をいただいた。	A			
	⑤ PTAの活性化			A			
	⑥ 地域教育協議会との連携			A			
	⑦ 学校関係者評価の実施			A			
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	・園内環境の安全・整備・改善に努めている。	・休業期間中は看板の作成、ペンキの塗りなおし、季節の自然物の栽培等保育環境を整備した。	A	・教職員で協力し合い、安全、快適な環境づくりに努めた。	・施設、設備を新たな視点で見つめ活用を考え、幼児の活動の充実につなげる。 ・安全面を考慮し、今後も施設・設備の管理し、修繕が必要な箇所については要請をしていく。	
	② 施設設備の有効利用	・施設、設備の管理を適切に行うとともに、有効活用できるようにしている。	・日常の遊具点検と共に各学期ごとに、用具・施設点検や環境整備を行い、安全に保育が行えるように努めた。	B			
	③ 施設設備の管理	・修繕が必要なものは関係機関に要請する。		A			
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	・各種文書を適切に作成、管理している。	・個人情報、情報モラルについて職員間で話し合い、共通理解に努めた。	A	・随時、情報管理について周知しているが、徹底の必要性があったので。 ・情報機器の取り扱いについては各自が十分留意して取り扱っている。 ・機会あるごとに保護者に啓発することで、個人情報への意識が少しずつ高まったので。	・個人情報の徹底した管理に努める。 ・職員の意識を常に研ぎ澄まし、マニュアルについては確認を怠らない。 ・各文書の作成、管理等は厳重に適切に行う。 ・保護者には引き続き情報モラルや危機感についての啓発をしていく。	
	② 公文書の作成	・個人情報について教職員が理解し、適切に取り扱うようにする。	・個々の意識の差や管理、チェック体制の不備がないか見直し、確認を重ねる。	A			
	③ 個人情報の管理・保護	・情報機器の管理、運用を適切に行う。	・市からの指示、通知等を周知し、情報の管理と保護を継続して行えるようにした。また、パソコン、デジカメ等の取扱いは市のマニュアルを遵守し適切に使用した。	B			
	④ 情報の収集		・保護者自身が個人情報について理解できるように啓発した。	A			